

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

特定の言語を習得することには、当然のことながら、「せつない」「つれない」「いずい」等々のハイコンテクストな(文脈に応じた多様な意味を持つ)言葉を数多く習得することが含まれる。そして、このような言葉は、いったん使い方を覚えてしまえば汎用性が高い。コンテクストに応じて多様な意味をもちうるということは、多様なコンテクストを横断して幅広く使えるということだからだ。

しかし、この特徴は、①言葉の濫用へと人を誘うものでもある。この場面では本当はもつと違う言葉で表現したり、意味合いの異なる言葉で伝えたりできたはずなのに、とりあえずなんでもこの言葉を使って済ます、という②ケイコウをつくりやすいのだ。たとえば、評判の映画を何本か観て、そのどれにも感動を覚えたとする。感動の自身は映画によってそれぞれどこか違うはずなのに、感想を表現したり伝えたりする際には、どの映画に関しても「すごかった」と言って済ますことができる。「すごい」という言葉の意味はとても③曖昧であり、映像が美しいことも、音楽が壮大であることも、衣装が豪華であることも、脚本がよく練られていることも、オチが④シュウイツであることも、俳優の演技が上手であること等々も、すべて意味しうるからだ。

しかし、そのように個々の映画の「すごさ」の自身を明確にする努力を一切せずに、いつもなんとなく「すごい」と言って片づける、というのであれば⑤問題だ。なぜなら、自分がこの映画のどういった要素に感動したのか、どこがどう「すごかった」のかを表現する言葉を探し、選び取ることは、ものを考えるという営みの重要な部分を占めるからだ。逆に言えば、そうした言葉の探索や選択という営みを放棄して、⑥なんでも「すごい」といった汎用性の高い言葉でやり過ごしてしまうのは、まさに思考停止に⑦オチいつているということにはかならない。そこでは、たんに言語表現が平板化・単純化しているだけではなく、同時に、思考自体が平板で単純なものになってしまっているのである。(これと同様のことは、嫌なものをなんでもなんとなく「きもい」と言ってしまう、といった場合にも当てはまるだろう。)

18世紀から19世紀にかけて活躍したフンボルト(ドイツの言語学者・政治家)は「言語をたんなる意思疎通の手段とみなすのは、

言語についてのもっともみちかだが、もっとも偏狭な見かたであり、精神と言語は同時かつ同一の行動である。」と述べている。

⑧、言葉はそれを語る人の精神や世界観と不可分だということである。

精神と言葉がどこまで切りはなせないものなのか、また、私たちの物事の見方や考え方が言語によってどこまで深く影響を受けるのか、それは明確ではない。⑨、少なくともはつきりと言えるのは、私たちは多くのケースで言葉を用いて考えているということであり、言葉なしに考えることはしばしば困難だということである。

この点について、クラウス（オーストリアの作家）が興味深い指摘をしている。クラウスによれば、言葉に対する人々の見方には、伝達するものとしての言葉にその価値を置こうとする試みと、形成するものとしての言葉にその価値を置こうとする試み、その二種類があるというのだ。

前者の「伝達するものとしての言葉」とは、意思疎通や情報伝達の手段としての言葉の側面であり、これは言葉に対する最も一般的で身近な捉え方だが、言葉のこの側面だけ見ようとするのはあまりに偏狭である——とクラウスは主張する。

他方、後者の「形成するものとしての言葉」というのは、まさに、コミュニケーションの相手に伝達する内容そのもの——意思や情報などそれ自体——を形成する働きとしての言葉の側面である。私たちは言葉を探し、それを並べたり、並べ直したり、さらに別の言葉を探したりしながら、自分の思いや考えなどを形にしていく。あるいはむしろ、そうした思いや考え自体が、言葉にすることに於いて形成されていく。精神と言葉(言語)はどちらが先行しているとは言いがたいが、いずれにしても、私たちは実際に多くの場合、言葉を探し選び取る作業を通じてはじめて、自分の思いや考え自体を見出すのである。

たとえば、私たちは誰かに話したり相談したり、あるいは文章を書いたりすることによって⑩はじめて、自分がどう思っているかやどう考えているかに気づくことがある。また、他人が言ったことを聞いたり、他人が書いたことを読んでみることによって始めて、「そうか、自分が感じていたモヤモヤした違和感の正体はこれだったのか！」とか、「自分が考えていたことを見事に言語化してくれた！」などと膝を打つことがある。重要なのは、そうやって言葉が形成される以前に、自分の思いや考えが本常に明確な⑪引|ンカクをもつて形成されていたかどうかは判然としない、ということだ。つまり、(まずは思いや考えがそれとして存在し、次に、

それに言葉を当てはめる」というような明確な順序があるわけではないのだ。

精神と言葉はしばしば、車の両輪のように、分かちがたい一体のものとして働いている。それゆえ、言葉の役割とは、自分の思いや考えなどを誰かに伝達するためのたんなる手段なのではない。クラウスの言う通り、^⑩言葉はそうした「伝達」という役割と同時に、「伝達すべきもの自体の形成」という役割も担^{にな}っているのである。

それゆえ、言葉を探し選び取る努力を放棄すること——たとえば、なんでもなんとなく「すごい」とか「きもい」などと言って済ませること——は、思考という精神の働きを止め、思考の内容自体を平板で単純なものにしてしまいかねない。

そうした汎用性の高い言葉の濫用が起こりがちなのは、たんに言葉を探したり選んだりする作業が面倒だということもあるだろうが、それだけではないだろう。むしろ、自分が属する共同体において、周りの人々がそうした言葉をよく使っているから、周りから浮かずに融け込めるように、自然と周りに合わせた言葉遣いに流れている、という面も大きいはずだ。ただ、いずれにしても繰り返し強調すべきなのは、言葉を吟味するという機会を欠いた発話は、表現や思考の平板化ないし単純化をもたらしかねないということ、また、自分の自由な意志で言葉を選んで発話するという主体性を失うことにもなりかねない、ということである。

だとすれば、^⑪私たちに必要なのは、言葉を吟味する営み、言葉を探して選び取る営みを手放さないということだ。

たとえば、私がある人から、共通の友人の性格をどう思うか尋ねられたとしよう。はじめに私の念頭に浮かんだ言葉は「ひ弱」だったが、どうもしっくりこない。私は別の似た言葉を探す。すると、「繊細」という言葉が思い浮かぶ。これもしっくりこないのので、さらに、「上品」「温厚」「思いやりがある」「親切」といった言葉へと次々に連想を広げていく。そして、「やさしい」という言葉に思い至って、この言葉がぴったりだと満足する。そして、「やさしいやつだね」と口に出す。

この、言葉を探して選び取る一連の実践において私は、友人の性格についてさまざまな角度からライトを当て直し、どのように照らし出すのが最もよいかを吟味して、「やさしい」という相貌の下に捉えるのが正確だと判断している。また、この過程は同時に、「やさしい」という多義語が具体的にどんな意味を含んでいるのかを再発見するプロセスだったとも言える。つまり、「やさしい」には「ひ弱」という側面も「繊細」という側面も、それから「上品」や「親切」等々の側面もあるが、そのどれとも言い切りがたい

独特のニュアンスがある、ということの再発見である。

『言葉なんていららない?——私と世界のあいだ——』古田徹也

問一 傍線部①「言葉の濫用」とありますが、どういうことですか。それを説明した次の文の空欄部A・Bに当てはまる言葉をそれぞれ指定された字数で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

場面に応じて A (十字程度) とせず、なんでも B (十五字以内) とすること。

問二 傍線部②・③・④・⑦・⑪の片仮名を漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問三 傍線部⑤「問題だ」とありますが、どのような「問題」が起こるのですか。それを説明した次の文の空欄部A～Cに当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

A (四字) だけでなく、 B (四字) までも C (五字) なものとなってしまおうという問題。

問四 傍線部⑥「なんでも『すごい』といった汎用性の高い言葉でやり過ぎしてしまう」とありますが、

(1) この場合の「すごい」はどのような意味を持ちますか。本文中より三つ抜き出しなさい。

(2) 「汎用性の高い言葉」とはどのような言葉ですか。文中の言葉を使って説明しなさい。

問五 空欄部⑧・⑨に当てはまる言葉を、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そして ウ ただ エ だから オ すると

問六 傍線部⑩「はじめて」が係っている単語を抜き出しなさい。

問七 傍線部⑫「言葉はそうした『伝達』という役割と同時に、『伝達すべきもの自体の形成』という役割も担っている」とありますが、この二つの役割とはどのようなものですか。それぞれ説明しなさい。

問八 傍線部⑬「私たちに必要なのは、言葉を吟味する営み、言葉を探して選び取る営みを手放さないということだ」とありますが、筆者がこのように考える理由を説明した次の文の空欄部A・Bに当てはまる言葉をそれぞれ十五字以内で書きなさい。
(句読点は字数に入れません。)

私たちは適切な言葉を探すことを通して、Aので、主体性を失わずBを防ぐためには言葉を選ぶ行為が大切であるから。

「のページには問題はありません」

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

〈県立高校に通う女子高生の「私」は、演劇部の三年生で、部長と演出を務めている。演劇の地区大会に向けて、部員たちの個性に合わせてアレンジしたものを「私」が脚本として書き上げ、演出家として部員の演技指導を続けてきた。〉

月曜日は文化祭の代休なので、朝から部活に使えた。

十時に登校して部室に集まり、まずはミーティングからだった。

「昨日はすみませんでした」

と吉岡先生が急に休んだことを謝って、それから少し反省会があった。演技のダメ出しが再度、いくつかあって、それから最後に、

「やっぱりラストがまだ①しつくり来てないと思う。これは、部長と二人で話しましょう」

という先生からのコメントがあった。私には、もう分からない。全然、何にも分からない。なんだか自分で舞台に感動してしまつて、これでいいと思うときもあるし、もつとよくなると思うときもある。②そんな気持ちを察したかのように、吉岡先生は続けてこう言った。

「大会まであと一週間です。体調管理をしつかりしてください。稽古はいままで通り続けるけど、精度を高めていく方向になります。でも③保守的にならないように、もつとよくなると信じて、それからもつとよくなるように祈つて。祈るんだよ、願ってるだけじゃダメ」

祈ることと願うことはどう違うんだろう。普通ならこういう時に、それを④スナオに質問するのはわび助かガルの役目だ。でも今日は二人とも⑤シンシヨウな顔をして黙っている。

⑥ぎつといま私たちは、「祈ること」と「願うこと」の違いを考えること自体を要求されている。二人も、みんなも、そのこと

が分かっているから、誰も何も聞かない。咳せき一つしない。

これから一週間のスケジュールを私が発表して、俳優はすぐにランニング、ストレッチ、発声と⑦シヨテイのメニューをこなしていく。明日からは稽古中心のメニューになるので、今日は少し準備運動を長めに行っている。私と吉岡先生は、その間に、ラストシーンについて話し合う。

「どうしたい？」

「分かりません。すみません」

「そうね、私も分からないけど……このままでも行けるかもしれないけど、なんだか足りない気がする」

「はい……って言うより、足りないって感じを役者が持っているんじゃないかと思います」

「そうだね。クルミを出すことで段取り上はほぼ⑧カンペキになったはずなのに、まだ何か足りない。⑨、単純にラストの台詞せりふ

の注尺が足りないんだと思う。全体に対してのバランスが悪い。あっさりした感じになっちゃってる。上品とも言えるけど、ラストはやっぱり、少し⑩あざといくらいに感動をとりに行った方がいいと思う」

「でも私、そんな、感動させるような台詞は書きません」

「あと一週間だから、台詞を変更するのもリスクがあるよね。あのね、こんなこと俳優たちには絶対に言えないけど、たぶん、よほどのことがない限り地区予選は通過できると思う、必ず。だったら、地区大会はこのまま行って、県大会までの三週間で変えるんでもいいと思うんだけど」

「分かりました。明日までに決められなければ、地区大会はこのままでやらせてください」

「中西さんと橋爪さんなら、きっと前日の変更だって、やってくれるとは思いますが、ここは安全策で行きましょう」

一週間といっても今日が月曜日で、木曜日に本会場でのリハーサルに行かなければならないので、実際はあと三日しかない。

この日は、ダメ出しに沿っての返しの稽古。たぶん、じっくり稽古できるのは今日だけだから、文化祭での本番でうまく行かな

かったシーンを繰り返し繰り返し練習する。音楽のきつかけ、音の上げ方も併せて細かく決めていく。

昨日も帰りの遅かった子が多いし、この一週間はきつと家族とご飯が食べられないから、五時には解散になった。私と中西さんがバス停に向かって歩いてみると、明美ちゃんが走って追いついてきた。

明美ちゃんは、バスを待っているあいだじゅう、部活が楽しくてたまらないという話を、ほとんど一人で喋しゃべっていた。たぶん、本番の緊張が解けたのと、吉岡先生からすぐ褒められたからだと思う。

「ねえねえ、土曜日の本番の前、二人で何してたの？」

バスに乗って、後ろの座席に三人並んで腰掛けてから、私が聞いてみた。

「ああ、『アルプス一万尺』やってた」

「え、台詞合わせてたんじゃないの？」

「だって、本番直前に台詞なんて言ったら、緊張しちゃうじゃん」

『アルプス一万尺』は、子どもがやる手遊びで、私たちはこれをウォーミングアップ代わりに超高速でやる。

「舞台の⑩スミで、すごい小さい声でやると、異様に盛り上がるんだよ。ね」

中西さんは笑って、明美ちゃんに同意を求める。明美ちゃんも⑪顔全体で笑う。

それから少しして、明美ちゃんは急に真剣になって役作りのことを話し出した。

「中西先輩が私のために、少し子どもっぽくしてくれてるのは分かるんですけど、あの、生意気ですけど、たぶん、いけると思うんで、前の感じでやってみてくれませんか、明日。明日の稽古で」

やってみるだけなら私は答えて、答えたあたりで明美ちゃんが降りるバス停が近づいてきた。

「お願いします。すみません、生意気言って」

と言いながら立ち上がって、明美ちゃんはバスを降りた。窓から見ると、明美ちゃんが深く頭を下げている。なんだか体育会系みたい。でもすぐに顔を上げたから二人で手を振ると、明美ちゃんも手を振ってくれた。

「いい部になったね」

「え、なに？」

「前の学校じゃ、二年が三年に^⑬あんなこと言えなかったもん」

「ああ、そうか」

「演劇は大変だよ、一年でも二年でも、上手い子は上手いもん」

「でも、他の部活でも一緒でしょ」

「そうか、ま、そうか」

「清原も一年の最初の時は、いじめられたらしいよ」

「誰、清原って？」

「そういう野球選手、昔の」

「野球好きなの？」

「弟が野球部だから、家じゃお父さんと弟は野球の話ばかり」

「でもいいね、兄弟がいて」

「うん、弟は好き。ちよつと臭いけど」

「ペットだつて臭いじゃん」

「ペットじゃないよ」

私たちは、もう演劇の話はせずにバスに揺られた。夏にはあんなに演劇の話ばかりしていたのに、もう話すことがなくなっちゃったんだろうか。きっと、そんなことはない。もう話さなくてもよくなった。いや、いまは話したくない。いま話すと、何か大事なものがこぼれていってしまう感じ。言葉にできないものを、^⑭たぶん私たちは、もう少しでつかみかけている。

「進路、どうすんの？」

終点が近づいて、中西さんがポツリと聞いた。

「分からない、考えてるけど」

私はそう言つてバスを降りた。

『幕が上がる』 平田オリザ

注 尺・・・長さ。

問一 傍線部①「しつくり来てないと思う」とありますが、「しつくり来ない」とはどのような意味か答えなさい。

問二 傍線部②「そんな気持ち」とありますが、吉岡先生は「私」のどんな気持ちを察しましたか。最も適当なものを、次のア～

オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部員の演技を高めるためにどのように指導すればいいのかが、もう分からないというとまどい。

イ 部員の演技はすでに完成しているので、吉岡先生の言っていることが分からないという不信任感。

ウ 部員の演技を今さら変えることができず、演出のことを何も分かっていなかったという無力感。

エ 部員の演技にまだこれ以上の改善点があるのかないのかということがよく分からないという迷い。

オ 部員の演技を指導することに限界を感じ、演出とは何をするかが分からないというくやしき。

問三 傍線部③「保守的」とありますが、「保守的になる」と同じような意味で使われている言葉を文中から三字で抜き出しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問四 傍線部④・⑤・⑦・⑧・⑩の片仮名を漢字に直しなさい。

問五 傍線部⑥「きつといま私たちは、『祈ること』と『願うこと』の違いを考えること自体を要求されている」とありますが、吉岡先生は「祈ること」と「願うこと」はどこが異なると考えていますか。それを説明した次の文の空欄部に当てはまる言葉を、四十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

「願うこと」はもつと演技がよくなればいいと頭の中で思うだけのことであるが、「祈ること」は ということだと考えている。

問六 空欄部⑨に当てはまる言葉を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア とりあえず イ むしろ ウ たぶん エ つまり オ なるほど

問七 傍線部⑩「あざとい」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 皮肉っぽい イ 笑いも取る ウ 意表を突く エ 丁寧すぎる オ 小ずるい

問八 傍線部⑫「顔全体で笑う」とありますが、明美ちゃんのどのような様子を表していますか。二十字以内で説明しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問九 傍線部⑬「あんなこと」とありますが、その内容を二十字以内でまとめなさい。(句読点は字数に入れます。)

問十 傍線部⑭「たぶん私たちは、もう少しでつかみかけている」についての、次の生徒たちの対話を読み、空欄部に当てはまる

言葉を二十字程度で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

Aさん 夏には演劇の話ばかりしていた二人なのに、なんだか他愛もない話ばかり続けているね。

Bさん 本文ではその理由を「もう話さなくてもよくなった」、「いまは話したくない」と書いているよ。

Aさん 夏から現在まで懸命に二人は稽古に取り組んできた。劇を作り上げる中で様々な不安が湧き上がってくる。だからいつも互いの考えを確認し合うように、これまでは演劇の話ばかりしていたんだろうね。でも、あの夏の頃と比べると、今は少しその不安が薄らいでいる状態と言えるかもしれない。

Bさん そうか。そう考えると、傍線部の直前の「何か大事なものは、その後の「言葉にできないもの」と同じ意味と言えるわけだから……。

Aさん そう。傍線部は、をもう少しでつかめそうな「私たち」の希望を表しているように思えるね。

ページの質問はあきらめず

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

今は昔、藤六とうろくといふ歌読み、下衆げすの家に入りて、人もなかりける折を見つけて入りにつけり。鍋に煮ける物を、すくひ食ひける程

どうして、こんなにもいない所に入つて、

に、家主いせあじの女、水を汲みて、大路おほちの方より来て見れば、①かくすくひ食へば、「いかに、かく人もなき所に入りて、かくはする物

召し上がるのですか

藤六さんではないですか。 それでは

をば②まゐるぞ、③あなうたてや、藤六にこそいましけれ。④さらば歌詠よみ給へ」と言ひければ、

⑤むかしより阿弥陀仏あみだぼつの誓ひにて煮ゆる物をばすくふとぞ知る

とこそ詠みたりけれ。

『古本説話集』

問一 傍線部①「かくすくひ食へば」とありますが、誰が何をしているのですか。三十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問二 傍線部②「まゐる」を現代仮名遣いに改めなさい。

問三 傍線部③「あなうたてや」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ああ、おもしろいなあ イ ああ、情けないなあ ウ ああ、どうしたの エ ああ、不思議だなあ
オ ああ、すばらしいなあ

問四 傍線部④「さらば歌詠み給へ」とありますが、なぜそのようなことを家主の女は言ったのですか。二十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問五 傍線部⑤「むかしより阿弥陀仏の誓ひにて煮ゆる物をばすくふとぞ知る」の解釈として、最も適当なものを、次のア～オの

うちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昔から阿弥陀仏は生きとし生けるものを救うという誓いを立てているので、地獄の釜で煮られる人を救うと私は承知して
います。けれども非力な私は鍋の煮えているものさえすくうことはできなかったのです。

イ 昔から阿弥陀仏は生きとし生けるものを救うという誓いを立てているので、地獄の釜で煮られる人が救われることに私は
感謝をしています。だからあなたにも一言お礼を言おうとしていたのです。

ウ 昔から阿弥陀仏は生きとし生けるものを救うという誓いを立てているけれども、地獄の釜で煮られる人は決して救われる
ことはありません。だから私は鍋の中をながめているしかなかったのです。

エ 昔から阿弥陀仏は生きとし生けるものを救うという誓いを立てているけれども、地獄の釜で煮られる人を救ってはならな
いことを私は承知しています。そこで誰か他の人が鍋の煮えているものをすくうのを待っていたのです。

オ 昔から阿弥陀仏は生きとし生けるものを救うという誓いを立てているので、地獄の釜で煮られる人を救うと私は承知して
います。だから私も鍋の煮えているものをすくわなければならないと思ったのです。